

令和8年度 第2回 浜松市立中郡中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 2026年6月30日(火) 14:00~16:00
2. 開催場所 浜松市立中郡中学校 会議室
3. 出席委員 高井 昭、本間 義章、杉本 泉、河合 洋子、小杉 敬治郎、山下 功、
村松 康乃、松本 英也
4. 欠席委員 川島 博美
5. オブザーバー 太箸 隼斗（積志協働センター）
6. 学校支援コーディネーター 梅田 瞳
7. 学 校 秋月 真也（校長）、川合 公孝（教頭）、鈴木 智香（教務主任）、
堀野 直子（1学年主任）、飯田 宣子（2学年主任）、野田 潤子（3学年主任）、
池野 誠（生徒指導主事）、佐藤 奈帆（CS ディレクター）
8. 教育委員会 清水 悠（学校・地域連携課）
9. 傍 聴 者 なし
10. 会議録作成者 CS ディレクター 佐藤 奈帆
11. 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、本間委員から高井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

12. 協議事項

- （1）教職員の業務量管理・健康確保措置について（中郡中の実態、及び、見直せること）
- （2）地域人材の活用 進捗状況と今後の取組について

13. 会議記録

司会の川合教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）教職員の業務量管理・健康確保措置について（中郡中の実態、及び、見直せること）

議長の指示により、秋月校長から別紙資料に基づき、教職員の業務量管理・健康確保措置についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・時代の流れに乗り、企業と同じような働き方がされるといい。（高井委員）
- ・上司が休みを取るよう働きかける等、年次休暇を取りやすい雰囲気作りが大切。（山下委員）
- ・前もって年間の休暇予定を立てておけば、業務予定も立てやすいのでは。（高井委員）
- ・目の前の人ともメールでやり取りする時代なので、デジタル化に対し、アナログも併用して直接会話するようにしないと、コミュニケーションが取れなくなる。（本間委員）
- ・先生たちの働き方改革によって、子ども達への影響が良いものとなることが基本。（高井委員）
- ・以前は比較的自由的な時間に勤務していたが、16時半定時になった今、20時までやっていた仕事をいつ行うのか。持ち帰っているのか。先生達の中でジレンマになっていないか。（河合委員）
- ・目標の残業時間で収まる業務量を目指し、スリム化したい。16時半以降に部活動指導があり、業務が残っている中で帰るよう促すのは難しいが、職員によって家庭の事情もあるので、それぞれに応じた働き方ができるといい。（秋月校長）
- ・教頭先生から夜の遅い時間に資料を届けてもらい、本当に多忙で大変な立場だと感じた。年次休暇に関しては、定年退職後の人生も踏まえ、勉強に費やすのもいいと思う。（小杉委員）

- ・産業医への相談について、学校側は個人が申し込んだか否か、把握していないのか。(河合委員)
- ・個人が産業医に相談したかの報告は、校長、教頭へは行われない。残業時間が80時間を超えて産業医にかかったケースの報告はまだない。(秋月校長)
- ・強制的に残業無しの日を作るとか、どこかでけじめをつけないといけないと思う。(山下委員)
- ・子ども達により良い教育をするための働き方改革だが、現状は難しい。家庭と学校間で連絡を取り合うことは非常に大事だが、時間外を留守電設定にすると、本当に話をしたいときに保護者と繋がらなくなる。業務のマニュアル化は、教員という職業では非常に難しい。時間内に退勤できる人は仕事ができる、残業する人は仕事ができない、という話ではない。(杉本委員)
- ・働き甲斐を考えると、教科ごとグループで話し合う時間を決めるといいのでは。(高井委員)
- ・教科ごとの研修会は実施されている。(秋月校長)
- ・研修の内容など、資料に詳細を記載してくれると、こちらとしても分かりやすい。(高井委員)
- ・生徒たちに良い授業をするための改革だと思うが、先生達がシステム化、デジタル化等の新しいことに取り組まないといけないのはとても大変だと思う。先生の負担を減らすために、保護者・地域との連絡調整を生徒に任せてみてはどうか。最終確認は先生がするとして、地域との関わりは中学生には可能だと思う。(村松委員)
- ・まず教頭が窓口として受付し、その後それぞれの先生に担当を振り分ける。それらをすべて生徒に任せるのは難しいが、生徒にサポートしてもらうことはできると思う。(秋月校長)
- ・ワークライフバランスは人によって違う。教職員を目指し、この職業に就いた人はある程度モチベーションの高い人が多いと思う。そういう人に対して、残業時間等で働き方をがんじがらめにしてしまうと、やりたいことが出来なくなるのでは。(松本委員)
- ・チーム担任制のメリット、デメリットをしっかりと押さえていくことが大事。(杉本委員)

(2) 地域人材の活用、進捗状況と今後の取組について

議長の指示により、各学年主任から別紙資料に基づき、地域人材の活用についての進捗状況と今後の取り組みについて説明があった。

【1学年】

今週、来週にかけて、家庭科の授業でゆかたの着付けをしていただく。7月8日(水)には、4地区ごとに30名程のグループに分かれ、民生委員の方々からの講話を聞く。子ども達は総合の時間に質問事項を考えた。(1学年主任)

【2学年】

7月10日(金)に、21名の方に職業講話をお願いしている。生徒はおよそ8名ずつのグループに分かれて2種類の講話を聞き、後半は質問の時間を取る。(2学年主任)

【3学年】

2学期にパパママ未来体験を予定している。ふわっとさんと夏休みに打ち合わせ、その後具体的なことを決めていく。チラシを配布するので、たくさんの親子に参加いただきたい。(3学年主任)

委員からは以下の発言があった。

- ・2年英語科の授業で、地域にいる外国人(英語話者)に協力してもらえるか確認する。(高井委員)
- ・家庭科でのミシンの補助について、中郡小に来ている方に、中郡中にも来てもらうよう声を掛けたい。(高井委員)

その他報告事項等

- ・秋月校長から、9月以降の休日部活動について説明があった。中郡中には12の部活動があり、7つ（女子バレー、男子バスケットボール、サッカー、ソフトボール、野球、男女ソフトテニス）は、はまクルとして活動する予定。代表者の方々は地域愛にあふれる中郡中出身の方が多く、地域の方の協力が非常に大きい。吹奏楽部は、引き続き部活動指導員の方にご指導いただく。美術部は、従来通り土日の活動はない。水泳部は、遊泳協会で一括して練習場と指導者を確保してくれる。柔道部と陸上部は、近隣にクラブがあるので、そこに通う子が出てくるかもしれない。
- ・川合教頭から、次回は8月6日（木）に臨時会議を開催し、中郡中の職員と話す時間を設ける旨の報告があった。